

## 【事業報告】

### 事業の概要

#### <公益目的事業>

##### I. 社会経済史・経営史関係

1. 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第59号（2025年）を刊行した。
2. 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加等をおこなった。
3. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（2件）を受け研究を進めた。
4. 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』3」の刊行に向けて原稿の修正を進めた。
5. 三井関係資料の調査・収集を実施した。
6. 閲覧業務は完全予約制・閲覧枠制限のもとで実施した。
7. 資料のデジタルアーカイブ構築（デジタル画像による公開、劣化対策並びに災害等に備えたバックアップ作成）のために所蔵資料のデジタルスキニング等によるデジタル複製画像の作成を進めた。
8. 所蔵資料分類目録の整備および所蔵史料データベースの整備を進めた。
9. 書庫内の資料保存環境整備を進めた。
10. 公的諸機関（地方自治体史編纂等）の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材等に協力した。
11. 三井の歴史に関する講演（対面・オンライン）をおこなった。
12. 関係会社、資料保存関係者等の三井文庫見学を受け入れた。

##### II. 文化史・美術館関連事業

###### A. 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 2021年12月に、三井不動産株式会社設立80周年記念事業として三井文庫が1億円の寄付を受け、そのうち美術館として5千万円の予算の中で「三井の文化に関わる社会貢献一過去から未来へ」のテーマのもとに以下の事業を実施する。
  - ① 文化財の保存と継承＝収蔵品のデータベース化（一部済）
  - ② インターネットで配信する映像制作（一部済）
  - ③ 三井の文化と社会貢献に関する出版事業（済）
  - ④ 学芸研究室図書の保管スペース確保事業（済）
  - ⑤ カフェ・ショップリニューアル（済）

今年度は以下の事業を継続して実施した。

(1) 収蔵品のデータベース化

- ① 主な収蔵品のデジタル撮影と、既存のポジフィルムのスキヤニング・データ化。
- ② 美術館収蔵品のなかから約1,000点を選び、オンラインで公開するためのデータベース作成作業。内、311点を先行して2026年3月27日に公開。

(2) 三井の文化と社会貢献に関する出版事業

『三井記念美術館20年のあゆみ』を2025年11月24日に発刊した。

2. 『三井美術文化史論集 第19号』を2026年3月31日に発刊した。

3. 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、2024年9月17日から2029年9月16日までの5年間、公開承認施設として認定中。

4. 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。

5. 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

1. 今年度は、下記5回の展覧会を開催し、2025年4月1日から2026年3月31日までに合計159,361人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,945,925人となった。

(1) 「国宝の名刀と甲冑・武者絵 特集展示 三井家の五月人形」

(2025年4月12日～6月15日) 入館者数 18,569人

(2) 「美術の遊びとところIX 花と鳥」

(2025年7月1日～9月7日) 入館者数 20,652人

(3) 「開館20周年特別展 円山応挙 一革新者から巨匠へ」

(2025年9月26日～11月24日) 入館者数 84,514人

(4) 「国宝 熊野御幸記と藤原定家の書 一茶道具・かるた・歌仙絵とともに」

(2025年12月6日～2026年2月1日) 入館者数 15,674人

(5) 「開館20周年特別展 生誕1200年 歌仙 在原業平と伊勢物語」

(2026年2月21日～3月31日) 入館者数 19,952人 ※会期終了は4月5日

2. 教育普及活動および美術館の運営・PRに関する様々な活動を行った。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、残月の間の庭側の柿葺き屋根の修理を実施した。

公開に関しては、2025年11月18日に箱根町が主催する箱根探訪会において「松の茶屋探訪

会」を開催し、午前10名、午後10名、計20名の参加者を得て見学会を実施した。

## <収益事業>

### I. 不動産事業

三井花桐ビルは、現在は満室となっている。今年度は室内空調機関連工事、受水槽・高架水槽補修工事、中央監視盤部品交換工事などを実施した。

また、売却に向けて準備を開始した。

## <事務局関係>

### I. 役員人事

1. 2025年6月17日に決議の省略の方式で開催された定時評議員会において、現任の理事9名が重任され、赤沼宇子氏、粕谷誠氏、鈴木良隆氏が新たに理事に選任された。また、監事は新たに橋本勝氏、笠田朋宏氏が選任された。

なお、理事のうち、石井寛治氏、齊藤修氏、粕谷誠氏、鈴木良隆氏は外部理事で学識経験豊富な研究者である。監事の笠田朋宏氏は外部監事で非営利法人に詳しい公認会計士である。

また、武田信二氏、宮内直孝氏、馬城文雄氏、田中稔一氏、赤沼宇子氏、粕谷誠氏、鈴木良隆氏から評議員辞任の申出があり、江頭敏明氏、佐々木卓氏、淡輪敏氏、野沢徹氏、松尾敏夫氏が新たに評議員として選任された。

2. 2026年2月28日に決議の省略の方式で開催された臨時評議員会において、辞任の申し出があった清水眞澄業務執行理事・三井記念美術館館長の後任として岩佐光晴氏が理事に選任された。
3. 2026年3月17日に開催された定例理事会において、岩佐光晴理事が業務執行理事・三井記念美術館館長（常勤）に選定された。なお、清水眞澄氏は三井記念美術館名誉館長（非常勤）に任命された。いずれも就任は2026年4月1日予定。

## <三井グループ350周年記念事業>

今年度は、9,726万円の寄附金をいただき、以下の事業を実施した。

1. 社会経済史研究室所蔵の資料のデジタル化
2. デジタル化のプラットフォーム・特設Webサイトの制作

なお、上記1及び2は2027年度までの継続事業である。